

大南の軌跡

武蔵村山市立 小中一貫校
大南学園第七小学校
学園だより No. 7
令和2年11月1日

読書習慣は人生の宝

校長 五十嵐 誠一

時候のあいさつ「灯火親しむの候」にふさわしい、読書の季節となりました。七小では昨年度から子供たちの豊かな学びのために読書活動の充実に務めています。今年度からは「読書貯金」の取組を始め、今は毎日のように読書目標を達成した子供たちが校長室に来てくれます。

どんな学力調査を行っても子供の読書習慣と学力には明瞭な相関関係が見られません。しかし、それ以上に子供たちにとって読書習慣は自分の人生を豊かにしていくために非常に大切なこと、人生の宝だと思います。私は子供たちがその生活の中で読書の習慣をもつためには次の二つが必要だと思っています。

まず第一は「本は楽しい」と気づくチャンスは何度も作ってあげることです。ストーリーがおもしろい、自分の知識を増やしてくれる、見るだけで楽しい・・・子どもが「本は楽しい」と感じる要素は様々で、どんな本がその子にヒットするのかはなかなかわかりません。ですから、子どもが色々なジャンルの本と出会うチャンスを何度も作ってやる必要があります。

一番手軽なのはやはり図書館の利用です。今は市内の図書館でも一度に10冊程度借りることができます。10冊の中には借りてきただけになってしまうものもあります。しかし、10冊のうち1冊でも興味をもって読める本があれば、そこから子供たちの世界は広がります。学校では図書時間に「味見読書」という取組をすることがあります。自分以外の人を選んだ本を味見するように短時間で何冊も読んでみる、という活動です。「自分以外の人を選んだ本」と言うのがポイントで、読書の幅を広

げるために効果的です。私が以前に担任した子供で、「目をつぶって棚からとった本を読む」という方法で本を選んでいた子供もいました。

二番目には、子供に「自分は本が読めるんだ」という自信をもたせることが大切です。明治大学の齋藤学教授によれば読書は自然にできるようになるものではなく、訓練して身につける「技」なのだそうです。その訓練に大切なのは「自分は読める!」という自信です。この自信をもつためには読んだ本の記録を残すことが効果的です。「今までにこんなに読んできたんだ。」と目に見えるようにしてやることが「読める」という自信とやる気を育ててくれます。(小さい子供もたちならば、お家の方が読み聞かせをしてくださった本の名前を書いておくのもいいですね。)ただ、ここで気をつけるべきは感想などを書かせないことです。記録すべきは日付と書名、せいぜいその本のページ数くらいです。本校の読書貯金記録も日付と書名だけを記録するようになっていきます。

そして最後に子供が読書の習慣を身につけるためにもう一つ必要なことがあります。実はこれが最も大切かもしれません。それは「家族が家で楽しそうに本を読む姿」です。大人が楽しそうに本を読む姿は子供たちにとって大きな影響力をもちます。「今どんな本を読んでいるの?」この一言が家族の中でのあいさつのようなになればすてきですね。

読書は食育と並んで小学生の時期にどうしても必要なものだと考えています。七小ではこれからも読書習慣の確立のための取組を続けていきたいと思っています。